

# 飼育レポート

## 飼育レポート①



### チリーフラミンゴのヒナ、初めての冬越し

飼育展示担当 櫻庭 美千代

2012年11月3日、19年ぶりに待望のチリーフラミンゴの雛が誕生しました。

11月の孵化となるとかなり遅めの孵化になります。寒くなると展示場での子育ては不可能です。この雛をどう冬越しさせるかが問題でした。そのまま寝室に入れても、環境の変化やストレスで、親は子育てをしなくなるかもしれません。ある程度親から育てられた雛を途中から人工育雛するとなると大変難しいのです。

そこで考えたのが、寝室のプールに土を入れ人工的に巣を作り、他の大人個体に踏まれないようにチリーフラミンゴと一緒にいたヨーロッパフラミンゴを仕切りで分ける方法です。また、寒さ対策として保温ライトを付け、天井や扉の隙間を塞ぎ、さらに少しでも落ち着くように窓は半分以上隠しました。北国での雛の越冬は他園でも事例がないため、色々な細工を施し、不安の中孵化後13日で親と雛を寝室に引っ越ししました。寝室に入れてから親は巣に近づこうとせず、なかなか雛を巣で抱こうとはしませんでした。もう無理かと思った5日目、ついに親が雛を抱きました。その後、親が雛にミルクを与え、雛と土場を歩き回る姿も見られました。



日に日に育つ雛は、嘴も足もフラミンゴらしくなり、今では自分で餌入れから採食するまで大きくなりました。初めての冬越しチャレンジ、冬場は日光に当たる時間が少ないなど、まだまだ心配はありますが、少しずつ大きくなる雛にぜひ会いに来てください。

## 飼育レポート②



### リスをより身近に

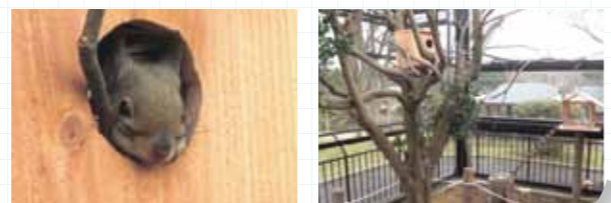
飼育展示担当 佐藤 由香利

2012年12月2日に新施設「リスの木」がオープンしました。

この施設は、前ニホンリス担当の「元気よく縦横無尽に動き回るリスたちをもっとお客さまにより間近でみて楽しんでもらいたい。」「よりリスを身近に感じてもらいたい。」という思いから建設が決まりました。

この施設のポイントはなんと言ってもリスと同じ空間に入ることができることです。中には自然の木があり、リスたちはその上を元気よく動きまわり木の葉を食べたり、餌を探して土を掘ったりと自由に過ごしています。そんな様子を間近で見て、リスの素早さや仕草のかわいらしさを感じてもらえると嬉しいですね。また、エサ台の付近はガラス面になっているため、外からでも小さな手で器用にエサを持って食べる姿もじっくり観察できるようになりました。現在は2012年生まれの3匹のリスたちが暮らしています。オープン初日、リスたちがどんな動きをするのか不安な部分もありましたが、人が近づいてもそれほど逃げることもなく、巣箱から顔をだしこちらを見るかわいらしいリスの姿を来園者の方々に見てもらえることができ、ほっとしました。

工事で枝葉を落としてしまったため、今は少し寂しげな印象がありますが、ゆくゆくは緑の葉が生い茂る木の上で、リスたちがのびのびと過ごす姿がご覧いただけるそんな楽しい施設になっていけたら良いと思います。元気いっぱい過ごすリスたちにぜひ会いに来て下さい。リスを見るなら、活動的な事が多い午前中がオススメです。



## 飼育レポート③



### NS乳酸菌の導入について

飼育展示担当 宇佐美 均

飼育動物の健康増進や排泄物から発せられる悪臭抑制、浄化作用による飼育舎の環境改善などの効果を期待し、2012年11月より「NS乳酸菌」を活用した取り組みを始めました。

これは、民間企業や行政等が連携し、地域経済の活性化を目指すための事業展開に動物園が協力したもので、NS乳酸菌の培地には地元の米や大豆、リンゴなどが使用され、培養には廃業した地元の酒蔵と工場が利用されています。

現在、アフリカゾウとボリビアリスザル、ニホンザルとピューマの4種を対象に、粉末と液体を干し草や果物、野菜や肉類など毎日のエサへ添加して与えています。

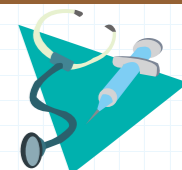
始め、一部の動物で警戒する様子も観察され、エサを残してしまう状況も見られましたが、今では食いつきも良く、ほとんど残すことなく食べてくれる良好な状態が観察されています。投与による効果かは分かりませんが、12月末にはピューマの交尾行動も観察されるようになりました。

エサへの添加の他、獣舎内の異臭元に直接散布する利用も行っています。サル山型式で管理しているニホンザルや室内で観覧出来るアフリカゾウでは、臭いの抑制に少しずつ効果が感じられています。

今後も動物の健康管理とお客さまが快適に動物観覧できる環境作りのためNS乳酸菌の有効利用を展開し、この取り組みが地域企業の活性化へつなげる一助となればと思います。



## 動物病院から



### 動物園獣医師の七つ道具 ～麻醉銃～

獣医師 柴田 千秋

動物園が閉園期間に入った昨年12月に、全職員で動物脱出防止対策訓練を行いました。万が一、動物が脱出してしまった場合に私たち獣医師は何をするかというのと、逃げた動物に麻醉銃を撃ち、眠らせるという役割があります。多くの動物園では、そのような事態を想定して、普段から麻醉銃を備えています。種類により異なりますが、現在使用している麻醉銃は、専用の注射器の中にセットして炭酸ガスの力で飛ばすしくみになっています。銃弾を発射することはできませんがそれでも鉄砲ですので、所持するには警察からの許可が必要です。当園では獣医師全員が麻醉銃を使用できるように許可を取っています。ただ、普段の治療では、ほとんど使用することがないので、いざという時に使い方を忘れてしまったり、段取りよく準備できないと困るので、年に数回は麻醉銃の練習をするように心がけています。

先日の訓練では、みんなで追い込んだオオカミ(ボードに描いた絵ですが)に麻醉銃を撃って捕獲するという内容でした。練習用の的以外で撃ったのは初めてでしたが、何とかオオカミの絵に当てることができました。実際は動き回る動物に撃たなければいけないので、そう簡単にはいきません。普段から万が一のことを想定しながら、気を引き締めて備えておくことが大事だと改めて感じました。

